

令和6年度 上田市立川西小学校 自己評価（前期）

学校教育目標		めざす子どもの姿		総合評価						
自ら考え ともに高め合 いがやく子			①進んで体を鍛え、明るく、元氣よく活動する子（体） ②自らねばり強く考え、課題を解決しようとする子（知） ③笑顔とあいさつを大切に、友だちと協力し合える子（情） ④自分で考え、進んで物事に取り組む子（意）	①運動会や川西オリンピック等の活動に進んで参加し、休み時間には体育館や校庭で体を動かして遊ぶ児童が多い。 ②表現方法や調査方法の一つとしてICTを活用しながら、各教科における追究場面や「じぶこえ集会」への取り組みの中で、自分の追究課題をさらに深めることができた。 ③気持ちのよい挨拶を広げると共に、友だちのよさに目を向け、お互いに支え合って生活しようとする姿をさらに増やしていきたい。 ④「じぶこえ集会」を機会に、好きなことを活かして進んで調べたり、自主的に学習に取り組んだりする姿が見られる。引き続き家庭と連携しながら、さらに深めていきたい。						
	今年度の重点目標 【 自分を越える 】		成果と課題			A	B	C	D	改善策・向上策
	①	「主体的・対話的で深い学び」の実現	伝え合う活動（話し合う場面、発表し合う場面）を意図的に設定したことで、自分の考えを深めたり、新しい考え方に触れたりする機会を増やすことができた。				○			単元構想の中で、児童が学びの主体となるようサポートできる場面を明確にしながら授業づくりを進めていく。
	②	「探究的な学習」の充実	生活科や総合的な学習の時間における実践の中で、児童の気づきや疑問からスタートし、自ら追究したり試行錯誤したりできる場面を、各教科で設定できるよう心がけた。					○		地域に目を向け、地域とのかかわりを深める活動につながるよう教材研究や人材確保に努めていく。
	③	通常学級における特別支援教育の充実	特別支援学級で実践している個別指導の具体例や児童にとってわかりやすさを視点とした事例を職員間で共有し、一般化・日常化を図ろうとすることができた。				○			これまでの成果を活かし、わかりやすさ、取り組みやすさを視点に、積極的に授業づくりへ取り入れていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価方法	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
楽しい学校づくり			児童一人ひとりが、「できた」「わかった」「楽しい」「うれしい」と実感できる学校になっているか。	アイウエオ	1時間の課題を明確に示し、「わかりやすく楽しい授業」を目指して授業改善に取り組んでいる。また、どの子にも居場所のある学校づくりに努め、全職員が一つのチームで全児童の成長を支える体制づくりに努めている。チームで職員間の連携を密にしている。		○			自由進度学習部会・UD化/特別支援教育部会で研究してきたことを基にして、年度後半は、今年度の重点①②③を視点に、さらに授業改善を進めていきたい。
教育活動	体力向上	運動への取り組み	体幹トレーニング、コーディネーション運動など、継続的に運動への取り組みができているか。	アイウエ	春の運動会や児童会主催の川西オリンピックでは、全校がそれぞれの目標にむかって粘り強く取り組み姿が見られた。休み時間には、多くの子が校庭や体育館で遊んでいる反面、体を動かさない子も見られる。7月上旬から9月末くらいまで熱中症対策が必要となっている。		○			川西オリンピックの計画と推進にあたり、からだづくり、体力づくりという視点から、親しみやすく取り組みやすい活動と、縄跳びやマラソンなど、友達同士や個人でも楽しめる活動などをバランスよく紹介していきたい。
		規則正しい生活リズムの構築	「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を意識した生活ができるよう、継続した指導を行っているか。	アイウエ	朝食をしっかりと摂ってくる習慣がついている子が多いことは本校児童のよさである。引き続き学校だよりや保健だより等を通して「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を呼びかけることで、すべての児童が習慣化するよう取り組んでいきたい。			○		専門家の方から話を聞いたり、視覚的にも理解できる情報提供をしたりするよう工夫し、児童が生活リズムを調えるよさを児童自身が実感できる場を設定したい。
	学力向上	「主体的・対話的で深い学び」の実現	児童が学びの主（主人公）になっているか。	アイウエオ	授業の始まりには、児童とこの時間に何をどのように学ぶかを、確かめながら授業を進めるよう心がけている。学習問題の提示や学習課題の確認を丁寧なことににより、友達同士で学び合う姿も見られるようになってきた。		○			わかりやすく楽しい授業の実現に向け、一人一人の個性や特性を捉えながら丁寧に対応し、もっと子どもたち発信、子どもたちメインの授業構想をしていきたい。
			自由進度学習やICT機器の活用など、未来に生きて働く力を育む教育手法を取り入れているか。	アイウエオ	校内研究部会で自由進度学習について研究し、扱えそうな単元や進め方について算数を中心に具体的な実践を積み重ねながら、子どもたちが主体的に学んでいけるよう努めている。子どもたちが自分にあった学び方を選択したり、決め出したりする機会になっている。		○			学習課題の設定や単元全体の流れなどを児童の気づきや疑問をもとに、一緒に話し合ったり決め出したりしながら、単元を展開していくようにする。
		「探究的な学習」の充実	地域に学ぶ学習や課題解決力を高める学習が実践されているか	アイウエオ	1、2年生の川遊び、3年生の花植えやジャコウアゲハを育てる活動、4年生の米作りなど、地域の方に支えていただきながら、児童が意欲的に取り組む姿が見られた。		○			生活科・総合的な学習の時間を中心にして、子どもたちの発想を活かした活動に取り組んでいきたい。その際に、ICTも効果的に活用し解決の方法を探ったり、自分たちから地域へ発信できたりするように配慮していきたい。
	教情育操	居心地のよい学級づくり	児童が自己肯定感を持ち、安心して生活するための取り組みを進めているか。	アイウエ	朝の会や帰りの会では、「今日よかったこと」「ありがとう」の言葉をキーワードに、友だちや学級の様子などを発表する場を設定している。肯定的な評価をする児童が増えている。		○			どの学級においても、友だちの「よさ」「やさしさ」「がんばり」を見つける活動を日常的に実施している。さらに具体的な姿を認め合えるよう工夫していきたい。
		児童会・係活動	「自分たちの学校を自分たちでより良くする」という視点を大事にした活動を計画・実践しているか。	アイウエ	児童会主催の「じぶこえ集会」やイベントの他に、きょうだい学級での活動も日常的に行えるようになってきた。挨拶については、進んでやることでお互いが気持ちよくなるのが児童の中に広がってきている。		○			じぶこえ集会の実践をもとに、後期の児童会祭りや縦割りを意識した交流活動などを充実させていきたい。
	自主・自立を育てる	家庭学習の充実	「紡ぐ」や「自主学習ウィーク」を活用した、計画的な家庭学習の習慣化が図られているか。	アイウエ	「自主学習ウィーク」を活用して、家庭学習の習慣化を図ると共に、自主学習の充実を推進している。児童が自ら取り組めるよう配慮して、具体例を紹介したり、実物を掲示したりしている。		○			自主学習の具体例を紹介し、児童の発想を活かした取り組みとなるよう支援していく。また、引き続き「紡ぐ」を書くことを通して、一日の振り返りや友だちのよさに気づく場として、活用を進めていきたい。
		メディアとの関わり	メディアの活用を計画的に行うとともに、適切な関わり方について考え、生かしているか。	アイウエオ	メディアコントロールデー（年2回）を活用して、本人と家庭がメディアとの関わり方を振り返る機会にしている。家庭においても学年だよりや学級だより等で児童の姿や頑張り等をお知らせしたり、定期的にホームページの更新を行い、学校の様子を発信したりしている。			○		引き続き地域や家庭に向けて児童の姿を発信していくと同時に、児童が望ましい活用の仕方を学んでいけるよう職員のスキルを高めていきたい。
学校運営	連地連携	コミュニティスクールの充実	学校運営協議会やコーディネーターと連携し、地域やPTAとの協力・支援を図ることができたか。	アイエオ	シャボン玉の皆さんによる定期的な読み聞かせのほか、各学年の活動において運営協議会の皆さんに地域講師として担っていただいたり、ボランティアとしても多くの方に関わっていただきありがたかった。また、PTA作業にも多くの方が参加してくださったおかげで、校内環境が整いありがたかった。		○			夏休みに地域研修を行い、教材化の可能性を探っている。今後子どもたちの学びの場となることを視点に、この地域に学び、授業づくりに活かしていけるよう研修を計画していきたい。
	研修	UD化を視点とした授業力の向上	自己課題を改善するため、自己評価や児童からの評価を活かし、日々の授業改善を行っているか。	アイウ	ユニバーサルデザイン化を視点に日々の授業や一人一公開授業での見合いと振り返りを日常的に行いながら、PDCAサイクルによる授業改善を進めている。		○			個別の学び方や学習の進め方に柔軟に対応できるように、明確な単元構想と丁寧な教材研究を基本に授業計画を立てていきたい。
	組織	情報の共有および全職員による指導	子どもたちの状況にかかわる情報をチームで共有し、同一歩調で対応できているか。	アイ	チームによる早期対応を心がけ、児童の気になる姿が見られた時は、まず情報共有を最優先事項として対応している。		○			引き続き家庭・地域との連携を密にしながら、全校児童の成長を全職員で支え、育ちを支える体制を継続していきたい。

○評価方法 ア：教師自身による評価 イ：学校長による評価 ウ：児童アンケート エ：保護者アンケート オ：学校運営協議会委員アンケート

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった